

## フィリピンの労働者協同組合を訪ねて

菊地 謙（協同総合研究所）

9月8日から12日の日程で、岡安専務、斎藤縣三理事（共同連：わっぱの会）、大学生協連の栗木さんと私、菊地でフィリピンのワーカーズ・コープを訪問してきました

フィリピンの労働者協同組合とは、大学生協連の国際活動を通じて岡安専務らが交流を続けてきており、すでに2回のレポート（00年7月・第98号「フィリピンのワーカーズコープ」、01年2月・第104号「障害者でつくる多目的協同組合」）が掲載されています。

今回は、7月に東京で行われたICAアジア太平洋地域青年セミナーに参加した、障害をもつ人たちの労働者協同組合「**BBMC (Bigay Buhay Multipurpose Cooperative)**」の代表のリチャードさんの誘いもあり、彼らの創立10周年行事に参加することを主な目的として、4泊5日でマニラ周辺のワーカーズ・コープを訪ねました。

それぞれの組織の基本的な情報については、以前の岡安専務のレポートで報告しているので、今回は私の感想も交えて日記風にレポートしたいと思います。

### 9/8(土) 出発

18:05 成田発の日航機で出発。21:20にマニラ着。機内は大きな荷物の帰省のフィリピン人ばかり。

23時頃ケソン市のレンブラント・ホテルに到着。軽く食事をして就寝。

### 9/9(日) BBMCへ

10:00ホテルを出発。大学生協連の職員の娘さんと現在フィリピンでボランティアをしている佐々木さんも合流して、車でBBMCへ向かう。

私個人としては、フィリピンを訪れるのは3回目であるが、最後に訪れたのが91年なの

で約10年振りである。熱帯の湿った空気を吸い込むと、ようやく東南アジアにやってきた実感がわいてくる。それにしても以前にも増して交通渋滞が激しい。

BBMCの自立生活センターに到着。10周年記念事業の一環でBBMCの建物を使った無料医療相談を見学する。これは、初めての取り組みのようだったが、大変好評なようで、大勢の人が集まっていた。医療と歯科そして医薬品の配付部門があり、それぞれ医学生インターンが診察にあたっていた。また、医薬品についてはロータリークラブが寄付をしているようだった。

BBMCのビルはケソン市のはずれの住宅

街にあり、2階建て(一部3階)で、昨年完成したばかり。1階部分を日本政府、2階を日本財団の援助で建設し、机や椅子をソニー・フィリピンが寄付する、といった日本とも非常に関係の深い建物である。敷地面積238平米。階段の代わりに車椅子用のスロップが大きな面積を占めている。

普段は1階には、障害のある子供たちのデイケアルーム、専門学校の実習生によるリハビリルーム、パソコンの講習ができるコンピュータールーム等があり、2階では、事務室、会議室、セミナー室、そして宿泊室などがある。更に3階部分は屋上のようにになっているが、将来的には増築が可能になっているとのことである。

午後から少し離れたところにあるBBMCの椅子工場を見学に行く。ここではBBMCの主要な事業である学校用の椅子の製造を行っている。工場といっても、作業場、と言ってもよいくらいの規模である。フィリピンでは学校の数不足しているため、学校用椅子は需要があり、96年にプロジェクトを開始して以来、30,000脚を生産している。その80%は公立学校で、政府からの受注であるが、支払いが非常に遅く、6~8カ月もかかるため、経営的には、非常に厳しい。工場の裏手には長い間建設途中で放置されている廃墟のような病院があり、そこでBBMCはこれから金属加工のトレーニング



グ・センター始めるということ。明日が開所式だそうだが、窓ガラスは全部割れ、床も塗っておらず、トイレも完成していない。

BBMCに戻って岡安さん栗木さんはICAセミナーの打合せ。菊地と斉藤さんは、佐々木さんと近所の散歩をしたが、結局打合せの時間がずれ込み、4時終了予定が、9時頃までかかることに。待つ間に、BBMCをずっと援助してきた日本人ボランティアの原みね子さんの話を聞く。

10年前に数学の教師を停年退職。聖公会の会員で、その関係でフィリピンでボランティアを始めるが、組織に属しているわけではない。当初、3年ほど日本語クラスの教師をしていたが、そこでリチャードたちと知り合う。それ以来BBMCの立ち上げからずっと支援してきている。小柄ながら背筋が伸び、80歳を過ぎているとは思えない。2ヶ月に1度ビザの更新も兼ねて日本に戻っているそうだ。

原さんの話によれば、フィリピンの医療や福祉の基盤は非常に弱く、リチャードたちBBMCのメンバーも努力しているのだが、なかなか厳しい。医療費は非常に高く、家族に病人が出て病院に入院したりすると、莫大な負債を抱えることになる。BBMCでも、医

療保険に加入したのだが、結局財政的に苦しいので、現在は保険料が払えていない。原さんは、財政面でも、日本大使館や日本財団などと繋いだりしている。また、現在フィリピンでは、借入の金利が年利18%と非常に高いた



め、絶対に借金はしないように言い聞かせており、給料が遅配になったり払えないときなど、返してもらうことを約束して援助もしているそうだ。

この日は、BBMCの車でホテルに戻ってから、KAMAYANというレストランでフィリピン料理を食べる。

### 9/10(月) UP多技能協同組合とBBMC10周年式典

タクシーでフィリピン大学(UP)へ。メトロマニラ生協連の女性が2人同行。UPの広大な敷地のなかにある事務所で、多技能協同組合(multi-skilled workers coop)の話



く。UPキャンパスの行政区(BARANGAY)には493haの敷地に25,000人から30,000人の大学職員らが居住しており、その人たちが、週末に自分たちの技能を使った仕事をしているようだ。例として見せてもらったのは端ギレを使った足拭きマットの製造や、行政が集めるゴミを分別してコンポストを作り、有機肥料にしてUP生協で販売する事業など。有機肥料作りには日本のEM菌を使っているそうだ。

その後、UP生協の食堂で食事をしながら懇談。メトロマニラ生協連の理事の方々も来て、交流する。

午後は、BBMCで10周年のセレモニーに参加。沢山のゲストが呼ばれており、ブツ・アキノ議員や日本大使館の人も来ている。地域の人や、他の障害者団体、行政、国際組織(ILO)など全部で100人以上の人が、BBMCの自立支援センター屋上の会場に集まる。リチャードのあいさつ、BBMCからの感謝状、ゲストのスピーチなどBBMCにとっては本当に晴れがましい一日だろう。みんな本当にうれしそうに見える。

セレモニーが終わって夕方から、2階の会議室でお祝いのご馳走とサンミゲル・ビールのおすそ分けにあずかりながら、リチャードたちと話を

かつてリチャードが研修で3ヶ月間日本に滞在していた時、特に頼んで障害者施設を見て回った。そこでの印象は「隔離されている」というものだったそうだ。「食事も決められたもの、映画や買い物、公園にもいけない。これならフィリピンの障害者のほうが自由だよ」とのこと。斉藤さんも同意していた。

酒を飲んだ勢いで、リチャードと奥さんの馴れ初めを聞く。2人が知り合った時リチャードが学校の先生をしており、彼女は学



生だった。2人は付き合うようになったが、彼女の両親や彼女の兄弟は交際を許してくれず、あわせてもらえないどころか、電話も取り次いでもらえなかった。リチャードが障害者で、働いて家族を養えないのが理由だった。困難を乗り越え結婚したが、両親が許してくれたのは初めての子供が生まれ、障害をもってないと知ったときだった。付き合い始めてから5年の月日が経過していた。

それにしても、彼らのたくましさには驚く。初めて国会議員の事務所をお願いをしに行った時は、2階の部屋まで車椅子が上がないので、這い上がっていったとのこと。フィリピンの交通事情や住宅事情は日本とは比較にならない。雨が降っただけで、道路に水が出て家の中に閉じ込められてしまう地域もある。給料のほとんどがタクシー代になってしまう場合もあるという。障害者が自由に行動できる条件がほとんどない中、全国を飛び回り、時には海外まで出かけるリチャードたちは、私たち以上に精神が自由な気がする。

これからの夢は、移動手段(シャトルバスの運営)や住宅問題にも取り組むことだそうだ。頭が下がる。

## 9/11(火) バレンズエラ市～カークバイ労働者協同組合へ

予定を少し変更して、マニラ近郊のバレンズエラ市の社会福祉開発事務所を訪問する。ここは市の援助でバランガイの行政事務所の中に障害者の相談窓口がある。女性のケースワーカーの説明によると、市内には子供を除いて1,500人の障害者がいる。バレンズエラは海に近く漁業や工業が盛んな地域であるにもかかわらず、障害者には働くチャンスがない。土地が低く、雨が降るとすぐに道が通れなくなり、外に出られない。この事務所には50人以上が登録していて、98年から電気修理の仕事、2000年からは靴修理の仕事を行うようになった。ゆくゆくはこの事業を協同組合化したいということである。

急遽来ることになったのに、入り口に歓迎の横断幕まで用意してあり、なんだか表敬訪問のような形になってしまった。中古車の援助をしてくれないか、と頼まれる。帰りにこの土地の名物だというパンチット・マラボンという麺料理を皆で食べる。こういうローカルな食べ物がなぜか好き。味は栗木さんいわく「カルボナーラに似ている」。

午後、カークバイ労働者協同組合





(KAAKBAY ENTRE-WORKERS COOPERATIVE)を訪問。3年前、民間企業を辞めた16人によって立ち上げた、文房具(ファイリング・システム)を作る協同組合である。アジア太平洋大学の指導もあって協同組合を設立したという。最初は50㎡の事務所スタートし、報酬は最低賃金、遅配のこともあった。この協同組合の目的は、1)仕事おこし、2)終身雇用、3)持続可能な経済、4)総合的な人間開発、5)社会開発である。その他にも理念やミッション、ビジョンと紹介され、非常に理論武装されている印象。毎週第1土曜日に組合員総会を行っていて、そこで組合員教育なども行われているという。また、小さな信用組合も持っている。小売りをするのではなく、企業と直接取引をしており、現在、ネスル、コカコーラ、サンミゲルといったフィリピンの大企業とも取引をしている。最近、ILOとのつながりができ、協同組合による仕事おこしのモデルケースとして、支援してもらっているということである。ここの資料はコピーをもらったので後ほど少し紹介したい。

BBMCのリチャードも同行したが、カークバイの活動についてはほとんど知らなかったようだ。非常に興味を持ち、提携して障害者の雇用につなげたいと言っていた。栗木さ

らによれば、フィリピンでは協同組合の横の連携はまだ弱いとのこと。

この日、ホテルをマニラのベイ・ビュー・パークに移動。マニラ湾の棧橋のレストランで食事。部屋に帰ってテレビを着けたら、ニューヨークのテロのニュースが始まっており、部屋を訪ねてくれたマニラ在住の友人との再開の挨拶もそこそこにCNNに見入る。

### 9/12(水) アライカプア協同組合

午前中だけ自由時間。昨日の友人に案内してもらって、中華街で飲茶。プーアール茶がおいしかったので、お茶屋さんでお土産に買う。中華街にいるといつもどこの国かわからなくなる。

その後、友人の住む地域で、カトリックのシスターが指導してロウソクや石けんの製造を行っているアライカプア(ALAY KAPWA)という協同組合を見学。1979年に立ち上げて、かなり本格的に生産事業を行っていて、ショッピングセンターなどにも卸している。友人は時々「密輸」と称してここの製品を日本に運んでいるらしい。

詳しくは(<http://www.pinoycentral.com>)を参照のこと。

14:30の飛行機でマニラを出発。さすがにテロの影響でマニラの空港は空いていた。今回の日程は4泊5日ということで、かなり駆け足になったが、フィリピンでの労働者協同

組合運動が、着実に発展している様子を目にすることができた。

